

DNA分析を用いたスギ品質管理型林業の推進

林業研究部

1. 研究の背景

近年、住宅市場では寸法安定性に優れ、強度性能が明確な木材製品が求められており、これに対応するためには、DNA分析に基づく材質特性が明らかな品質管理型林業の確立が重要である。

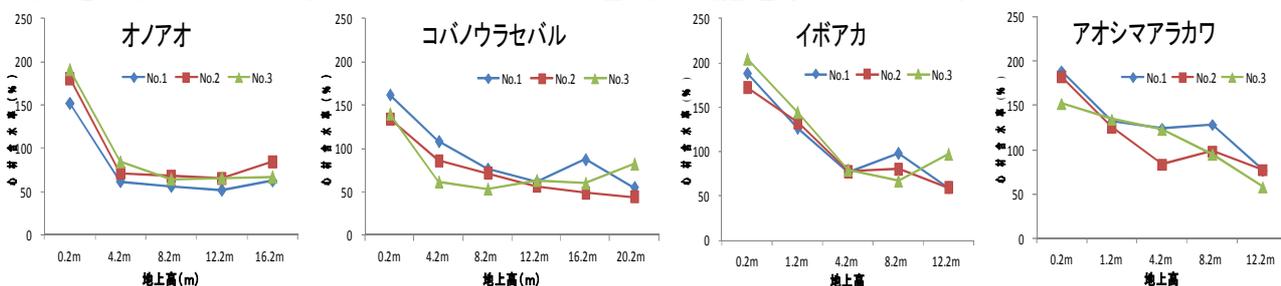
そこで、スギ優良品種の選定に資するため、県内外に植栽されている地域の品種をDNA分析により確定し、材質特性を調査した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

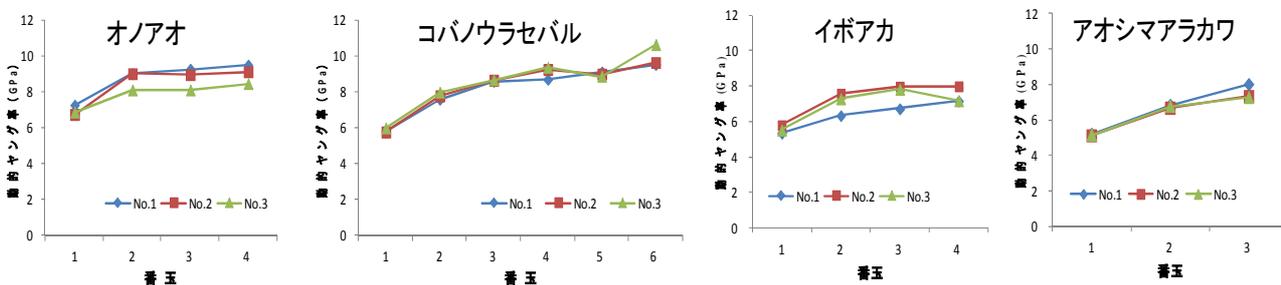
各地域で造林されているスギ品種について、心材含水率、動的ヤング率及び容積密度を測定した。

その結果、オノアオ及びコバノウラセバルは心材含水率が低く乾燥性が優れ、ヤング率が高いことから強度が高い品種であることがわかった。

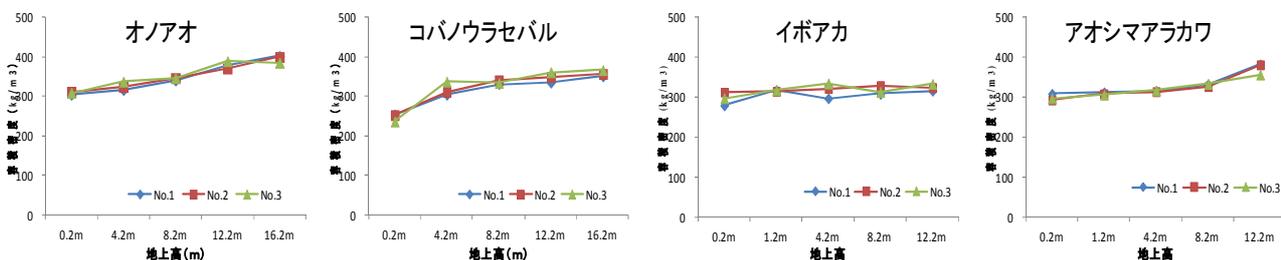
(県北西部＝オノアオ、コバノウラセバル：宮崎県飫肥地方＝イボアカ、アオシマアラカワ)



心材含水率



動的ヤング率



容積密度

3. 期待される効果

- ・ 品種特性が明らかな品質管理型林業の実現
- ・ 材質特性の優れた木材の供給

4. 担当機関連絡先

林業研究部 森林チーム

TEL : 0973-23-2146